

肅冬

いそはな中云は

二月 洋り 園中に滞るゝと 吟の 陽春

のーやーと 留守中とは 指す果ては

野趣に 移り 毎いづり けりは 春情し

候 阻者は 礼中上まを

園中 雨かふらふと 大暮りーと 此分て

け米の ちうさふ 少い 細く けりまを 坂本

先月 は 祝愿と ありと 坂本の 西教 有本

肅啓 御無沙汰申上候

一ヶ月許り関西に滞留して昨日帰来
致しました 留守中に結構な品々御
贈恵に預り 毎々の事乍ら御芳情の
程難有御礼申上ます

関西も雨がふらなくて大変でした 此分で
は米の上り高も少々心細くなります
先般御配慮を願った坂本の西教寺本

山へ参る途中、電氣から見えたと唐崎
迎へ下りたり、景色が時ろる色に一変し
る。電氣より一ふ、この山へは出下る
に和寺の木舎といふ人、明治公論社に合
せたら、貴家よりお頃の茶器式おろし
ん、つゝと目録を記し、つゝともの
らありやう、然しお茶をよにけりけ
らふ、つゝとつゝ

山へ参る途中電車から見ますと唐崎

辺もすつかり景色が時局色に一変して

いて驚きました。一度この本山へも御出下さい

仁和寺で 木舎といふ人 政治公論社 に会ひ

ましたら 貴家より拝領の茶具一式持ち込

んでいました 目録を見ましたらよいものが中

にありました 然しお茶をやる仁には見うけ

られなかつたです

方との寺と廻りたる尾門跡と一と修学
院の林丘寺と地跡上七軒の西方寺へり
さうした西方とて夫と特をのびて境一
と加中より林立と幽寂そのもの西方は千家
雲流の大勢の光有し一とあそむやう
足さるも朽木のはよもんひす。
宜雨山荘つゝ久しく伺いまをんのひ一
詩情雅懐と伸べなくあそむに殊に

方々の寺々を廻りました 尼門跡として修学

院の林丘寺と北野上七軒の西方寺へ行

きました 両方とも夫々特色があつて嬉しかつ

たが 中にも林丘は幽寂そのもの 西方は千家

裏流の大店の感有之 一度おすすめ申上候

尼さんも枯れたのはよいもんです。

宜雨山荘へも久しく伺ひませんで一度

詩情雅懷を伸べたく存居候 殊に

先取^{いさ}は青^{あお}富^{とみ}にてお兄^{あに}の支那^{しな}太郎^{たろう}
と私の印譜^{いんぷ}に押さうと貰^{もら}うたと思^{おも}つ
てゐる

何卒^{なにとぞ}は主人^{しゅじん}様^{さま}へ直^{ただ}市^{いち}は鳳^{ほう}夢^むちん

七月廿^{にじゅう}二^に

田山^{たやま}信^{のぶ}子^こ

長尾^{ながお}全^{ぜん}夫^ふ人^{じん}様^{さま}

先般御主人御書斎にて拝見の支那古印
を私の印譜に押さして貰ひたいと思つ
ています

何卒御主人様へ宜布御鳳声下さい

七月廿八日

田山信郎

長尾令夫人様